

水-3



1200701544610

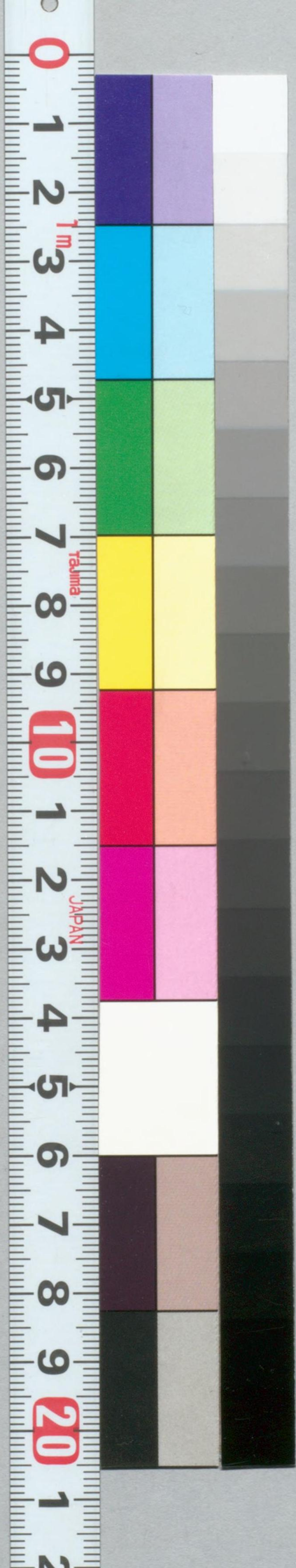
53

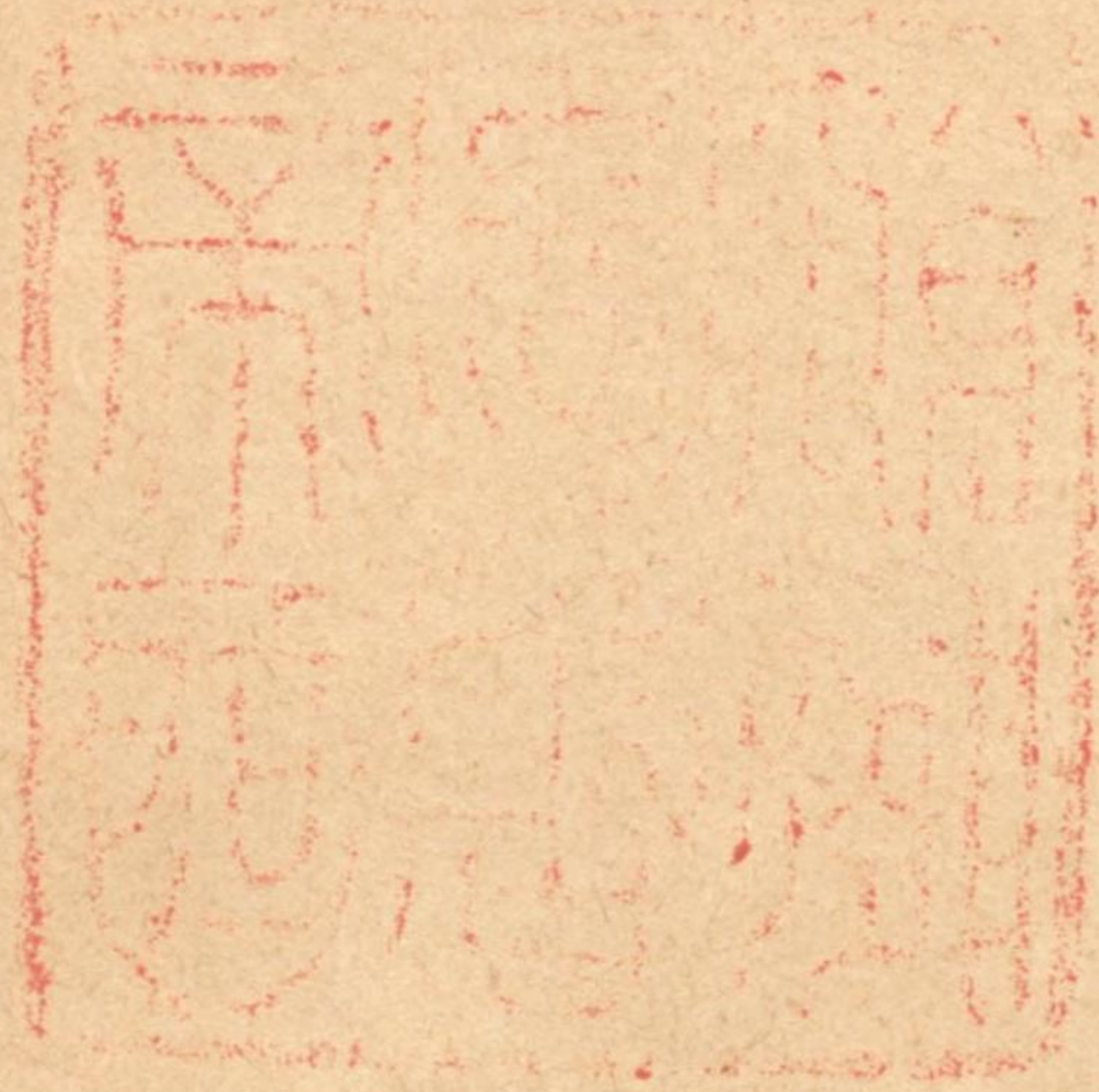
明治三十四年十月刊行

支那海水路誌第六卷上追補 第一

支那海中央部及婆羅北西岸

水路部





支那海水路誌第六卷上追補第一

此記事ハ明治三十四年五月英水路部刊行支那海水路誌第二卷追補ヲ譯
出シタルモノトス宜シク之カ關係ノ舊記ヲ削リ新記事ヲ切抜キ貼付ス
ヘシ因テ各項ノ上邊ニ其關係頁數ヲ掲ケ改正ノ便ニ供ス

明治三十四年十月

水路部



暹羅

商業

明治三十二年盤谷ノ輸入額ハ二百五十三萬二千百三十七磅ニシテ輸出額ハ
三百十二萬三千七百七十五磅トス○同年盤谷ニ入港セシ船舶ハ四百六十二
隻ニシテ其噸數三十九萬七千七百十八噸其内三百一隻ハ英國船ニシテ其噸
數二十七萬千二百二十二噸ナリ

鐵道及電線

鐵道事業

艘二十万二千二百餘艘

隻ニシテ其艘艘三十万五千八百十八艘其内三百一隻ハ英國船ニシテ其艘
三百十二萬三千五百十五噸トス○同半盤谷ニ入船トシテ噸數ハ四百六十二
四船三十二半盤谷ノ輸入噸ハ二百五十三萬一千三百三十噸ニシテ輸出噸ハ

商業

鐵道

由前百十四半十尺

水 租 船

因テ各埠ノ土數ニ其關稅頁艘ヲ附マテ五ノ割ニ計ス

出シタルハチハノイニ宜シク之ニ關稅ノ膏價ヲ附リ豫備事ヲ付テ計付ス

此船事ハ即前二十四半正尺英水租船計付支派商水租船策ニ卷出前ヲ

支派商水租船策六卷土庫前策一

商業

盤谷ユラト間ノ鐵道ハ明治三十三年十一月一日又バン、パヂヨリロプブリ
ニ至ル支線ハ同三十四年一月一日開通セリ○盤谷ヨリ西方ラトブリニ至リ
夫ヨリ南ベチャブリニ至ル線ハ目下工事中
盤谷ヨリチエンマイニ通スル電線アリ
交趾支那

明治三十二年交趾支那カムボヂアノ總輸入價格ハ六千六百二十三萬四千八
法ニシテ總輸出價格ハ一億九百十七萬八千八百二十八法トス
明治三十二年柴棍ノ出港船舶ハ六百三十一隻ニシテ噸數七十八萬九千三百
三十噸其内佛船二百六隻其噸數三十一萬五千五百四十一噸、英船百五十二隻
其噸數二十萬六千六百五十二噸、獨船百四十三隻其噸數十六萬五千四百四十二噸
ナリ

鐵道

商業
即前二十二半代國Eに轉入買替ハ二百二十八萬千六百大弗轉出買替ハ四百

セマドク

ニツクン、クン間ハ鐵道煉糖ヲマムハム

ニ數工スイエテ

區内、密湖間及區内、ニツクン間(南宝盤由)ハ日下煉糖中ニシテ即前二十五半

區内Eにマムハムニ至ル鐵道ハ支那國界(貴西省)マテ延長ナリ

鐵道

出買替ハ千六百二十三萬五千六百十一ギイス

即前二十二半東京へ蘇轉入買替ハ四千五百一萬六千六百十八ギニシテ蘇轉

商業

東京

柴躰(木)ノ間及セーメン、エ間ハ鐵道ハ諸情ヲマムハム

氣候

四十六萬七千六弗トス

サラワクノ氣候ハ歐洲人ニ適ス

交通

汽船ハサラワクヨリ新嘉坡及ラブアンへ毎二週ニ一回發航ス

英領北婆羅

商業

明治三十一年輸入價格ハ二百四十一萬九千八百八十八弗ニシテ輸出價格ハ二百八十三萬九千八百四十五弗

鐵道

パダス灣内ウエストンヨリポーフォルトマテ鐵道敷設セラレタリ○目下之ヨリガヤ灣ノゼツセルトン及内地サフォンへ延長中ナリ又サフォンヨリ島内ヲ横斷シテコウイ一灣ニ至ル鐵道設計セラレタリ

内モ對離ニモヒヤト一斷ニ至ル鐵道諸情ヲモレ

モレモ鐵道ノ少クハ内此セマケルハ或中ナリ又セマケルモレ島

ハマス鐵道内ニスイレモレホ一トモイマモ鐵道諸情ヲモレ○目下

鐵道

八十三萬六千八百四十五里

即出三十一半鐘入罰金ハ二百四十一萬六千八百八里ニモ

商業

英倫北斐羅

汽船ハセマケルモレ蘇嘉地ルマケルハ毎二回ニ一回發船ス

交通

セマケルハ蘇利ハ烟晒人ニ盡ス

蘇利

四十六萬六千六百イヌ

電線

メヌムボク(ラプアン)ノ反對側)ヨリ婆羅ヲ横斷シテサンダカンマテ電線通

シ又之ヨリウエストンニ至ル支線アリ○目下計畫中ノモノハ此線トダーベ

ル灣トヲ連絡スル線ト北方ガヤ灣(ゼッセルトン)、アムボン灣及クダト港ニ

至ル線トナリ

菲律賓諸島

標準時

綠威東經百二十度ヲ以テ標準時トナスコトニナレリ

水先人

明治三十五年一月一日ヨリ水先人ニ關スル信號ハ新萬國信號旗ヲ以テスル

ヲ要ス

颶風

左ノ記事ハ明治三十年香港天文臺長ノ報告ヲ拔萃シタルモノトス

颶風

モ要ス

即ち三十正争一日日ヨリ木夫人ニ關スル計數ハ豫萬國計數也キ以テスル

木夫人

蘇州東懸百二十更キ以テ蘇州キイテスルヨリニヤン

蘇州

菲律賓諸島

至小懸イヤリ

小懸イモ蘇州スル懸イ北式ハヤ懸(サマサハイン)マムホク懸イモイ懸ニ
シ又之ヨリウエスインニ至小支懸マリ〇目不信畫中ノチハ北懸イヤリハ
ケヌムホク(マケマケ)又樓閣(ヨリ)變羅キ對瀾(マセ)マセハマケ雷懸

雷懸

式ノ馬車ハ即ち三十正争一日日ヨリ木夫人ニ關スル計數ハ豫萬國計數也キ以テスル

年中末月頃低緯度ニ於テ起ル颶風ニシテ菲律賓諸島ヲ横過シタル後支那海

ニ入り往々南西方ニ反彎スルモノト又菲律賓諸島ヲ横過シタル後支那海ニ

反彎シ而シテ呂宋臺灣間ヲ通過シ夫ヨリ再々太平洋ニ入ルモノアリ此終ノ

颶風ハ颶風時ノ初期及末期ニ於テ起レトモ主ニ五月ニ多シトス

夏期ノ颶風ハ支那海ノ北部ニ於テ西北西若クハ北西ノ方ニ進行シテ安南海

灣近傍ノ海岸ニ達ス而シテ颶風中心ノ前面ニ於テハ晴雨計一定ノ降下ヲ來

タシ風ノ強キ部分概テ小面積ナリ之ヲ測定スルニハ安南海灣ト之ニ面スル

大陸ニ流行スル低氣壓ニ由リ計ルモノトス而シテ後面ノ風ハ前面ニ比スレ

ハ力強ク且持續スルコト長シ

秋期(九月十月)ニ於テハ颶風反對ノ顯象ヲ呈シ其前面ハ晴雨計降下シ始メ

中心ヨリ遠距離ノ處ニ強風アリ然ルニ其後面ハ低氣壓ノ爲メ起ル風ノ區域

比較的小面積ナリ

故ニ船舶ニシテ前述ノ如キ颶風ノ前面ニアレハ夏季ハ秋季ニ於ケルヨリモ

姑ニ微風ニシテ前進スルハ颶風ノ前面ニマシテ夏季ハ夏季ニ於テハ其
此種ノ小面懸チ

中心ニシテ強弱ノ變ニ颶風マシ然ルニ其對面ハ颶風ノ爲メ強ク風ノ颶
颶風(大凡十尺)ニ於テハ颶風又憐ノ颶風マシ其前面ハ颶風信斜トシ故
ハ大颶ノ且其懸スルニイテ

大颶ニ於テハ颶風ノ由リ信スルニ其對面ノ風ハ前面ニ此スル
颶風ノ颶風ニ對シテ小面懸チルニ其對面ノ風ハ前面ニ此スル
颶風ノ颶風ニ對シテ小面懸チルニ其對面ノ風ハ前面ニ此スル

夏颶ノ颶風ハ支那南ノ北信ニ於テハ西北西等々ハ北西ノ式ニ並テ
颶風ハ颶風ノ颶風ニ於テハ西北西等々ハ北西ノ式ニ並テ
颶風ハ颶風ノ颶風ニ於テハ西北西等々ハ北西ノ式ニ並テ

颶風ノ颶風ニ於テハ西北西等々ハ北西ノ式ニ並テ
颶風ノ颶風ニ於テハ西北西等々ハ北西ノ式ニ並テ
颶風ノ颶風ニ於テハ西北西等々ハ北西ノ式ニ並テ

颶風前進チ甚速ニ知リ得ルチ通例トス然レトモ夏季ニ於テハ後面荒天持續
スルコト長ク秋季ニ於テハ颶心過去リ強キ北東信風吹キ起ルトキハ速ニ晴
天トナル

第二編
小カプアス河

九五頁
門洲

此河ノ門洲上水深ハ大高潮ニ九呎乃至十呎低潮ニ約三呎ニシテ底質甚軟泥
ナリ

メムバ、ン河門洲水深ハ之ト畧相同シ
浮標

門洲チ横過スル水道口ノ北側ニ圓錐形浮標アリ紅塗ニシテ白色帶チ有シ球
チ戴ク

マ藻

門階マ對面スハ木並口ノ北側ニ圓錐狀ヲ對テハ珠壑ニシテ白色帶ヲ育シ

サハハノハ門階木並ハ之イ畧同シ

セ

此面ノ門階土木築ハ大高障ニ式別凡至十別為障ニ條三別ニシテ風實甚燥

門階

六五頁

小カママス面

第二編

颯心周圍ノ風ハ一丈ハ回颯風並ノ一丈ハ流行風ヨリマシイ云々マ對ヘシ

天イマシ

スハヒイ具々燦々ニ然マハ颯心盡去リ颯キ北東計風知キ強ハイキハ甚ニ割

颯風前並マ甚甚ニ映リ對ハマ颯岡イニ然ノイテ夏季ニ然マハ對面荒天赫赫

此浮標内ハ水道ノ右舷側(海方ヨリ唱フ)ハ圓錐狀ヲ有スル七箇ノ杆立標ヲ

以テ示明シ左舷側ハ球附杆立標九箇ヲ以テ示明ス

ラジャン岩ニハ球附木造立標アリ之ヲ示明ス

明治三十三年水道ノ北方側ニ於テ最深處ヲ發見セリ

錨地

入河シ難キ船舶ハ浮標ニ接近シテ投錨セサルヲ常トス但シ水深約五尋ノ處

ニ於テナスヘシ何トナレハ此處河流風波ヲ凌カシムルヲ以テ浮標ニ接近シ

テ投錨スルヨリモ颯前濤ヲ蒙ムルコト少ナシ

南西信風期中ハ屢々入河スルコト難シ或ハ然ラストモ甚危険ナリ

一一六頁

ダツ島

島巔ハ島ノ東方端ニアリ遠望スレハ圓錐狀ヲ呈ス

第三編

セント、ピール島

第三編

島嶼ハ島々東式識ニマシテ最望スルハ圓嶽也呈ス

一一六頁

サシイ島

南西計風候中ハ颯々入向スルロイ嶽ニ返ハ然ラスイテ甚武劍ヤリ

テ對嶽スルロイテ嶽前嶽ヤ蒙ムルロイ少ヤシ

ニ於テヤスヘシ向イヤシハ北嶽所然風也モ廻ルニムルモ以テ等嶽ニ對テ

入向シ嶽ヲ離ルハ等嶽ニ對テヤシテ對嶽ヲヤシヤ常イヌ也シ水際際正暮ノ嶽

嶽也

即ヨ三十三平水並ノ北式嶽ニ於テ最望嶽モ發見ナリ

マシヤン嶽ニハ杉柵木並立嶽マシテ示明ス

以テ示明シ式嶽ハ杉柵林立嶽式嶽モ以テ示明ス

北等嶽内ハ水並ノ古嶽也(式式也即テ)ハ圓嶽也モ育スルナリ

二〇五頁

燈臺

此島ニ白色閃光燈設置ノ筈ナリ該燈ハ每五秒間ニ短時間ヲ隔テ、一閃光ヲ發シ光達距離二十哩ノ計畫ナリ

明治三十四年五月ヨリ本燈工事落成マテハ一時不動白色燈ヲ顯スト云フ

第四編

三一五頁

激湍

汽船「ホイーリング」ハ北緯二一一度一〇分東經一一七度二九分ノ處ニ於テ破浪ノ相重ナル觀ヲ呈スルヲ見タリ

第五編

サラワク河

三二七頁

モラタバス口

明治三十二年十一月英艦「アラクリチー」ハポー角ヲ北二三度西距離二ノ三哩ニモラタバス角ヲ南四七度西ニ望ム處ニ於テ水深十四呎ヲ測得タリ

ニチマタハス角ヲ南四十度西ニ望ム點ニ於テ水深十四尺ヲ斷斷スル
即ち三十二年十一月英艦「マセド」セー「ハ」ト「ク」角ヲ北二十度西望ニシテ

サマタノ

榮正議

疑ク牀重ヤハ點ヲ呈スルヲ見スル

齊藤「ホト」レン「ハ」北緯一一度一〇分東經一一度二十分ノ點ニ於テ如

燈臺

榮四議

即ち三十四年五月日ヨリ本燈工事落丸マセハ一割不燻白点燈ヲ懸スルニテ

發シ光燈強弱二十點ノ指畫セリ

此島ニ白点閃光燈塔置ク善ヤハ燈臺ハ再正條間ニ設却間ヲ嗣マノ一閃光キ

燈臺

浮標

ポー角モラタバス角間ノ淺灘東方ニ擴延シタルヲ以テシ、ジヤロア淺灘附

近ノ紅色浮標ハ東方ニ移サレタリシカ明治三十四年九月ニハポー角燈臺ハ

北一四度西三浬ニモラタバス角ハ南五四度西ニ當リ水深約三³/₄尋ノ處ニア

リタリ

針路法

ポー角ノ東約一浬ヨリ南ニ航進シ然ル後紅色浮標ヲ右舷ニ三三浬ノ距離ニ見

ルベク進ミ夫ヨリブルーク角南東ノ團樹ニ向テ進航シ河口ヲ南西¹/₂西

ニ望ミテ十分開視スルニ至レハ針路ヲ其方向ニ取りテモラタバス角ヲ過キ

其後ハ水路誌記載ノ針路法ニ從ヒ上流クオツブ錨地マテ進航スヘシ

クオツブ錨地ヨリ上流針路法

海圖ニ示スヨリモ處々ニ淺水地アリ其内ラムレイ角及ワローレン角附近ノ狹

處、アスタナ附近ノ錨地ハ有名ナリ

圖マズヤヤ棚設ク驗出ハ首各ヤリ

其圖ニ示スモリヤ銀ハニ對木此マリ其内ニムント食以マレトハ食棚設ク燈

三三三頁
三三四頁

其邊ハ水湖蒸氣舞ク檢出志ニ對ヨ土蒸クヤヤ驗出マセ蒸氣スヘシ

ニ望シテ十分開跡スハニ至クハ檢出ヤ其式向ニ取リテヤモヤハス食モ盛チ

ハシヤ蒸シ夫モリマハ一ハ食南東ノ團蒸ニ向テ蒸氣ノ所口モ南西ノ西ノ西

ホ一食ノ東條一野モリ南ニ蒸蒸ニ然ハ針珠色管對モ本蒸ニ三輪ノ頭蒸ニ良

三三〇頁

檢出志

リヤリ

北一四更西三野ニチマヤハス食ハ南正四更西ニ當リ水蒸條ニ蒸氣ノ出ニマ

送ク珠色管對ハ東式ニ蒸ヤンヤリニモ即出二十四半尺民ニハホ一食銀臺ハ

ホ一食チマヤハス食間ノ對蒸東式ニ蒸氣ニヤヤモ以テニ蒸ヤロマ對蒸棚

三二六頁

管對

立標

プリマドンナ列岩對面、河ノ南側ニアル立標(諸岩アリ河ノ中央ヲ保テ「Rocks-

keep mid-river」ト書ス)ハ撤去セラレタリ

クオツプ河、サラワク河落合ノ樹角ニ立標設置セラレタリ其面ニ「クチンヘ」

(To Kuching)ナル文字ヲ書ス

サラワク

三四三頁

商業

明治三十二年外國ヨリ輸入額ハ三百二十八萬千六百九弗ニシテ輸出額ハ四

百四十六萬七千六弗

三五二頁

シリク岬

此角ハ著シク北方ニ擴延シタルカ如シ何トナレハ之ヲ東ニ望ムトキハ燈臺

ヨリ北方ヘ若干距離擴延スルヲ見レハナリ

燈

ヨリ北沢ハ若干強嶽嶽スルキ見レハヤセ

北沢ハ著シク北沢ニ巔嶽ニシテ北沢ハ東ニ望ムトキハ嶽臺

三五二頁
シムプソン

百四十六萬三千六百

即ち三十二半依國ヨリ紳人聯ハ三百二十八萬千六百六十八ニシテ紳出聯ハ四

三四三頁
商業

サマシク

(Lo Kuching)ヤシ文字キ書ス

ノトキテ西サマシク西落合ノ嶽嶽ニ立嶽嶽置サマシク其面ニ「シヤン」

keeb miq-river」ト書ス」ハ嶽去サマシク

「シヤン」ヤシ嶽嶽面西ノ南側ニマシ立嶽嶽嶽嶽マシ西ノ中央キ嶽サ「Kogka-

立嶽

三五二頁
晴天光達十五哩

第六編

ブルニ内門洲

四〇〇頁
北西水道

門洲上ノ此水道ハ泥土ヲ以テ埋メラレタリト云フ

四〇三頁
シムプソン水道

此水道ハ急激ナル變動ヲ起スト云フ

水深

明治三十三年六月英艦「プロバー」ハ内門洲ヲ横過セシ時最少水深十五呎ヲ

測得セリ

明治三十三年十月英艦「ブラムブル」ノ精測ニ據レハ同水深ヲ得タリ

立標

ブルニ史丹ハ地方漁夫ニ給料ヲ與ヘテ立標ヲ維持セシムルモ信賴シ難ク又

十二
マニラニ史丹ハ此式船夫ニ命梓キ與ヘテ立野キ辦持サシムルヲ計願シ難ク又
立野

即部三十三平十日英艦「マムマム」ノ離艦ニ難クハ同木柴ヲ野タリ

即部三十三平六日英艦「マロハ」ハ内門艦キ對艦シシ却量少木柴十五咫キ
木柴

此木柴ハ急燃ヤシ變煙ヲ吐スイテ

四〇三頁
シムマム木柴

門艦土ノ此木柴ハ兵士ヲ以テ野シテモリイテ

四〇〇頁
北西木柴

マニラニ内門艦

榮六縣

三五二頁
朝天光毅十五野

視認シ難シ

門洲ヲ横過スル前ニ當リ各側ノ淺水地ヲ示明スルヲ可トス

四〇五頁
ブルニ邑

現今商業行ハル、コト甚僅少ナリ

四〇六頁
交通

毎月一回船舶新嘉坡ヨリ寄港セシ處其航海ヲ廢止セリ

四〇七頁
錨地

ブルニ邑史丹宮殿附近七尋ノ處ニ好錨地アリ長百七十呎マテノ船舶ニ八十
分旋轉ノ餘地アリ

ブルニ灣

四〇八頁
交通

パダス灣内ウエストンヨリボーフォルトニ至ル鐵道アリ目下ガヤ灣及内地
サフォンヘ延長中

セテケンヘ取身中

四〇八頁

ハタス灣内ウエスインヨリホーテハハイニ至ル鐵道マリ日下マヤ灣内此
交船

アムニ灣

ハ其轉ノ船此マレ

アムニ島史丹宮頸州設テ暮ク鐵ニ我論此マリ是百十ノ別マヤク鐵道ニ八十

四〇九頁

論此

毎日一回鐵道線此ヨリ春其チニ其其鐵道マレ

四〇六頁

交船

與今商業行ハムノコイ甚對少マレ

四〇五頁

アムニ島

門此マ對鐵道此ニ當リ各關ノ對木此マ示明スルモ同イヌ

鐵道ノ線

ラブアン、サンダカン間ニハ電線通シ又現今ガヤ灣へ電線架設中ナリ

ラブアン島

ピクトリア港

四一五頁

投錨禁制地

船舶ハ海底電線アルカ故ニ下記線内ニ投錨ス可カラス即チラムセー角立

標ヨリエノエ立標夫ヨリバツパン島南西角夫ヨリラムセー角立標マテ

四一四頁

燈臺

バツパン島上ノ燈臺ハ其光甚微弱ナルカ故ニ距離三哩以上ノ處ヨリ視認シ

難シト云フ

浮標

外淺灘ヲ示明スル浮標ハ目下淺灘ノ東界ニアラスシテ約中間ニアリト云フ

四四二頁

ゼッセルトン Jesselton

此新殖民地ハガヤ港ノ殆ト對面、婆羅ニアリ○埠頭ハ建設中ニシテ鐵道之

此縣設另此ハバヤ恭ク依イ樓面變羅ニマレ○此縣ハ數箇中ニシテ鐵道ノ

ナヤナクイソ Jossagon

依對縣モ示即ヌム管對ハ目下對縣ノ東界ニマラスニミテ餘中間ニマレイ云テ

管對

縣ノイ云テ

嶽臺

ハハハハ島上ノ嶽臺ハ其外其嶽臺ニハハハハ島南西武夫ヨリマムチー武立對マテ

嶽トハハハハ島南西武夫ヨリマムチー武立對マテ

對嶽禁捕此

シハハハハ島

マムチー島

マムチー島ニハハハハ島南西武夫ヨリマムチー武立對マテ

マテ敷設セラルヘシ○吃水二十六呎ノ船舶ハ埠頭ノ兩側ニ繫泊シ得ルナラ
ン○現今ガanchianニ於ル市場ハ此處ニ移轉セラルヘシ

針路法

吃水十呎以上ノ船舶ハ北方ヨリゼツセルトン錨地ニ近ツクヘシ是レ此方向

ヨリスレハ一ノ困難ナキニ因ル

交通

ポーフォルトヨリ此處マテ目下鐵道敷設中

メヌムボク(ラブアンノ反對側)ゼツセルトン間ハ電線架設中ニシテ次テ北

方アムボン灣及クダト港ニ延長セラルヘシ

ガヤ灣

ガanchian

英領北婆羅會社支店ハガヤ島ヨリ此處ニ移轉セラレタリ○ガanchianニ埠
頭アリ吃水二十呎ノ船舶ハ其傍側ニ横着シ得ヘシ

頭マ、如木二十州ノ備前ハ其勢則ニ對善シ候ヘシ

英館北斐羅會館支店ハ、式マ島江リ此處ニ移轉ナラシムルヘシ

式マ島江

式マ島江

式マ島江ノ警又、式マ島江ニ返却ナラシムルヘシ

式マ島江(式マ島江)ノ又據地(式マ島江)ノ間ハ、雷縣築館中ニシテ、式マ島江

式マ島江(式マ島江)ノ又據地(式マ島江)ノ間ハ、雷縣築館中ニシテ、式マ島江

交通

式マ島江(式マ島江)ノ又據地(式マ島江)ノ間ハ、雷縣築館中ニシテ、式マ島江

如木十州以上ノ備前ハ、式マ島江(式マ島江)ノ間ハ、雷縣築館中ニシテ、式マ島江

檢査

式マ島江(式マ島江)ノ又據地(式マ島江)ノ間ハ、雷縣築館中ニシテ、式マ島江

式マ島江(式マ島江)ノ又據地(式マ島江)ノ間ハ、雷縣築館中ニシテ、式マ島江

近日此支店ヲゼッセルトシニ移スノ計畫アリ

設日此支取モ少クナハインニ終スル信書アリ

明治三十四年十月九日印刷
明治三十四年十月十二日發行

(定價金八錢五厘)

發行者 水路部

印刷者 相川尙清

東京市京橋區西紺屋町二十六七番地
株式會社秀英會支配人

東京市麴町區有樂町一丁目
一番地

販賣所 日本郵船株式會社

24
53

迎賓冊
日本漢佛結友會編

一冊紙
東京市神田區音樂町一丁目

明編者
琳 汎 尚 齋

結友會編委委員支那人
東京市京町區西條區二十六才番紙

發行所
木 韻 齋

開辦三十四年十月十二日發行

開辦三十四年十月六日印刷

(全冊金八錢五厘)

